

会 議 記 録

会議名称	杉並区学校用務業務等受託者候補者選定会議（第3回）	
日時	令和7年1月9日（木）午後1時00分から午後5時00分	
場所	杉並区役所中棟4階 第一委員会室	
出席者	委員名	杉並区教育委員会事務局次長 岡本 勝実 桃井第五小学校校長 佐野 篤 浜田山小学校校長 緒方 康裕 松ノ木小学校校長 笠原 秀浩 高井戸東小学校校長 馬場 章弘 向陽中学校校長 斎藤 耕一郎 東田中学校校長 鳥居 利至 杉並和泉学園学園長 松浦 素明 高円寺学園学園長 田中 稔 阿佐ヶ谷中学校用務技能長 藤原 栄一
	事務局職員	教育委員会事務局庶務課長 渡邊 秀則 教育委員会事務局庶務課教職員係主査 伊藤 直人 教育委員会事務局庶務課教職員係 中村 一矢、松本 泰輝、細馬 憲子、鈴木 真美
配布資料	(1) 選定会議次第 (2) 第二次審査評定票 (3) 第二次審査時間割 (4) 評定票の記入手順について (5) 第二次審査質問例 (6) 見積額一覧 (5) 【参考資料】受託希望表	
会議次第	1 第二次審査の流れについて 2 プレゼンテーション、質疑応答 3 審査結果及び受託者候補者の選定	

1 第二次審査の流れ

事務局より、第二次審査の進め方について説明を行った。

本日、プレゼンテーション、質疑応答を行い、第一次審査及び第二次審査の各委員の採点結果をもとに本選定会議の受託者候補者を選定する旨、説明を行った。

2 第二次審査（プレゼンテーション、質疑応答）

【A事業者への主な質疑】

【委員】できれば若い人を配置してほしい

【事業者】会社の将来も考え、採用活動しているが現状厳しい。経験値の積み重ねが大事だと考えている。

【委員】天然芝について

【事業者】他の自治体で実績がある。また、ゴルフ場の管理をしている部署もあるので会社内で横の連携をとって実施する。

【委員】学校にそぐわない職員の対応について

【事業者】業務上の場合、学校から配置換えをして本部付けにする。人間関係の場合、適切な組み合わせを見つける。

【委員】職員採用における AI 活用とは

【事業者】コンサル会社に依頼している。

【委員】新規校の場合、経験者を配置してくれるのか。

【事業者】経験者の採用、社内異動で経験者を配置する予定。1名は必ず経験者を配置する。

【委員】遅刻、寝坊の場合

【事業者】社内メールで朝の勤務を確認。連絡がなければ代替職員を手配。

【委員】障害者の雇用について

【事業者】8名。学校事業部には1名。各校を巡回。他の者は電話対応などに従事。

【委員】環境問題について

【事業者】ISOを取得している。

【委員】人件費を高く設定している理由

【事業者】他の自治体でも公契約条例の金額が上がってきている。より良い人材を採用するため。

【B事業者への主な質疑】

【委員】女性配置について

【事業者】性別による決めはない。女性配置を希望する学校については優先的に配慮する。

【委員】学校実施の不審者侵入の訓練に参加は可能か

【事業者】可能。在籍するすべてのメンバーで。犯人役でも可能。

【委員】欠員補充について

【事業者】応援要員、巡回指導員など教育している。長期的な欠員が生じた際にも対応可能。

【委員】受託希望校を絞っている理由

【事業者】欠員の対応、管理体制を考え、現在受託している学校と近い学校の方が、より包括的な管理ができ、いいサービスを提供できると考えているため

【委員】受託業者が変わった場合、職員は全員残るのか、全員変わるのか。

【事業者】転籍のパターンもある

【委員】人間性に優れているとは

【事業者】コミュニケーション力を重視。面接及び初任者研修の中でも図っている。

【委員】学校に配置後、適性がないことが分かったらどうするか

【事業者】半年間は試用期間。年度途中であっても、配置換えを実施する。

【委員】障害者雇用について

【事業者】学校用務については、今年度は無いが、施設管理業務で雇用していた実績はある。会社としては法定基準を満たしている。

【委員】用務業務は社員なのか

【事業者】フルタイムは社員。施設管理（勤務時間が短いもの）はパートタイム。

【D事業者への主な質疑】

【委員】朝の開錠について

【事業者】家を出るタイミング、学校についてのタイミングで電話連絡することになっている。エリアの統括責任者が電話を受ける。

【委員】107人は常に確保できているのか。

【事業者】杉並区であれば107人を常に確保している。うち40人は巡回。

【委員】事務局へ：仕様書の開始時間からずらして業者に開錠してもらうのは大丈夫なのか

【事務局】仕様書に、変更になる場合があると記載している。

【委員】応援体制について

【事業者】学校行事の場合、増員もしている。社員も対応できるように登録している。

【委員】学校行事の場合、朝6時～夜遅くまでやっているが対応してくれるのか

【事業者】事前に話をしてもらい、職員と協議して整えば可能

【委員】小・中・一貫校で社員を採用する上で重視するポイントは違うのか。

【事業者】分けてはいない。基準を満たしている職員を2週間かけて判断する。基本方針として、各校最低1名女性社員を採用している。

【委員】学校備品の管理についてどのようにしているのか。

【事業者】個数が分かっているものは備品台帳を付けて管理している。

【委員】ユニフォームがあるのか

【事業者】ポロシャツ、ズボン、ジャンパーを配布し、名札を付けさせている。

【E事業者への主な質疑】

【委員】採用の上で重視している点は

【事業者】子どもたちの模範、気配りできることが前提。社会的良識があり、コミュニケーション力が高いこと、および人間性を重視。

【委員】人間性とは

【事業者】自然と笑顔になり、子どもたちに安心してもらえそうな人。すべてを満

たす人がいればそれが一番だが、全体的なバランスを見て、適材適所に配置。

【委員】芝生の維持管理は。

【事業者】造園業もやっているの、ノウハウがある。

【委員】人材確保についてやっていることは

【事業者】一般的な募集活動と部署異動にて人員を配置している

【委員】100%区の職員を目指すとはあるが、それにより想定されるデメリットは

【事業者】学校に影響のある人や学区内の人については、断るか離れた学校に配置

【委員】学校にふさわしくない職員がいたら

【事業者】指導→改善が前提。改善されない場合はできるだけ早い段階で配置転換する。

【委員】作業計画について

【事業者】授業に影響が出る場合は十分配慮して計画を立てる。副校長に確認も行う。巡回作業員による応援も可能。

【委員】コロナの経験から学んだことは

【事業者】「正しく恐れる」。消毒作業、トイレの次亜塩素酸を使用した清掃。区の方針に則ってやっていく。体調管理のマニュアルも整備してきた。

【委員】学校実施の不審者対応訓練に参加してもらうことは可能か。

【事業者】可能。犯人役でも。作業リーダーだけでなく全員で可能。

【委員】新たな学校を受託した場合、経験者を配置してくれるのか

【事業者】1名は経験者を配置。

【委員】現状の障害者雇用について

【事業者】学校業務ではまだ。清掃現場で活躍している障害者の方はいる。

【F事業者への主な質疑】

【委員】ハザードマップは学校にも共有されるのか

【事業者】基本的には社内展開。学校管理職と協議しながら共有する。

【委員】増員体制について。落葉の時期には校内業務の時間が圧縮されるのでは。

【事業者】週一回の打ち合わせで共有していただければ、増員も可能

【委員】天然芝の維持管理スキルは

【事業者】受託している学校に天然芝もある。マニュアルや研修も実施している。

【委員】新規校に経験者を配置してくれるのか。

【事業者】主任従事者は経験者を配置。作業員も可能な限り経験者を配置したいが、そうでない場合は研修やOJTで体制を整える。

【委員】障害者雇用は

【事業者】学校現場にはない。マンションの共用部やオフィス清掃の職員で雇用

【委員】応援体制について

【事業者】サポート従事者を派遣。

【委員】ユニフォームについて

【事業者】パンツ、インナー、ジャケット、長靴など必要な部分を支給。帽子は着用していない。

3 連絡事項

事務局にて得点を集計し、いずれの事業者も審査基準で定めた評価点数の75%を超えたため、受託者候補者として選定することとした。なお、受託校については、受託希望表をもとに得点の高い受託者候補者から順に協議することとした。

以上